

9月9日（水）

ミラノ市議会表敬訪問

ミラノ市庁舎に着くと、周辺は多くの観光客で賑わっており、街の活気を感じることができた。

市庁舎前で記念撮影の後、ミラノ市議会のバジリオ・リツォ議長を表敬訪問した。バジリオ・リツォ議長、東議長、村上副市長の挨拶の後、記念品を交換し、記念撮影を行った。



【バジリオ・リツォ議長 挨拶要旨】

本日、大阪市代表団及び大阪市会代表団の皆様をお迎えすることができ、非常に光栄である。

大阪市とミラノ市は姉妹都市提携を行っており、35年もの長きにわたって友好関係を築いてきたことは大変喜ばしく、様々な分野において交流を図っており、非常に有益な結果・効果をもたらしている。

本日からの2日間にわたり両市が共同で計画している観光プロモーションに関して、素晴らしい成功を認められるよう祈念する。

現在、開催中のミラノ万博であるが、日本館が大成功を収められていることは非常に嬉しいと思っている。万博を訪れた方々も日本館を高く評価しており、メディアなどでも大きく報じられている。

日本ならではの近代的・先進的なテクノロジーの側面と日本の歴史や「食」の歴史を知的に表現されていることが、日本館が高く評価される理由の一つであり、大阪の皆様を始め日本の皆様に敬意を表する。

今後も両市の友好関係が續いていくことを祈念する。

ミラノ市庁舎前広場

(スカラ座広場)

【東議長 挨拶要旨】

両市の35年間にわたる貴重な交流の歴史と成果を誇りに思うとともに、さらなる発展に努めていかなければならないと考えている。

今回の私どもの訪問を機に、これまで培われた両市の友情の絆が、今後より深く充実したものになることを期待している。

また、ミラノ国際博覧会に、大阪市も日本館イベント広場で「姉妹都市大阪から魅力発信」をテーマに出展をする。大阪市も「大阪のくいだおれ」という言葉があり、古くから「食の都」と言われてきた。今回の出展が、ミラノ市の皆様に姉妹都市である大阪を少しでも知っていただく機会となるとともに、国際博覧会の成功に少しでも貢献できれば幸いである。

【村上副市長 挨拶要旨】

大阪市はミラノ市と同様、商工業を中心に発展してきた都市であり、文化面でも共通点が多い。1981年の姉妹都市提携以来、経済、芸術、スポーツ、文化等幅広い分野において活発な交流を展開してきた。

本市は、明日より13日まで、ミラノ国際博覧会日本館イベント広場において、大阪の「食」と「観光」の魅力や両市の姉妹都市交流の歩みを発信する。両市が来年姉妹都市提携35周年記念を迎える中で、このような機会を得たことを大変嬉しく思う。

博覧会では、「大阪とミラノの友好親善のために」と集まった「姉妹都市交流親善大使」の皆さんのが、フードパフォーマンスや試食・試飲体験等を通じて、大阪の「食」をPRするほか、大阪発のアイドルや歌劇ユニットによるライブパフォーマンスにより、世界で注目される「クールジャパン」を紹介し、大阪の観光魅力を発信する。姉妹都市交流親善大使らも市役所に来ているので、後ほどバジリオ・リツツオ議長にご挨拶をさせていただく。

また、本日、アーバンセンターで観光プロモーションセミナーを、また、11日にはビジネスセミナー等を開催する。今回の我々の訪問により、両市の交流がビジネスなど、より一層幅広い分野で促進することを期待するとともに、多くのミラノ市民の方々に大阪の魅力を知っていただきたい。

来年は、ミラノ市代表団にお越しいただき、姉妹都市提携35周年を大阪で一緒に祝いできればと考えている。可能であればバジリオ・リツツオ議長にもお越しいただければ幸いである。

最後に記念品の交換、記念撮影を行い、表敬は終了した。



表敬訪問の様子

ミラノ市庁舎視察

ミラノ市議会の表敬訪問を終え、引き続き、バジリオ・リツツオ議長同行のもと、議場見学を行った。

議場は大阪市会の議場ほど広くはないものの、縦に長く、赤布の椅子と赤絨毯で重厚感があり歴史を感じさせる雰囲気であった。

また、議場では、姉妹都市交流親善大使の表敬訪問があり、井上経済戦略局長の挨拶の後、親善大使である有限会社こんぶ土居、株式会社トップ、大阪スクールオブミュージック高等専修学校（アイドルユニット S.O.ON project）、株式会社ムーブ（大阪城サムライ・レディーズ）の各代表の方々から挨拶及びミラノ万博出展への意気込み表明があり、バジリオ・リツツォ議長をはじめ大いに盛り上がった表敬訪問であった。

その後、ミラノ市の担当者から説明を受けながら市庁舎視察を行った。



ミラノ市議会
議長席にて

【説明概要】

現在の市役所は、過去はマリーノ宮殿であり、スカラ座広場にある最も古い建物で1500年代中ごろにジェノバ出身の銀行家であるトマーゾ・マリーノにより建設され、設計もジェノバ出身のガレアッソ・アレッシに依頼したものである。1861年から市庁舎として使用されている。

現在は市役所として、イベントのためのスペースなども設置されており、親善大使の方々と写真撮影を行った中庭は市役所であることを忘れさせるほど光が注ぎ、素晴らしい空間であった。また、装飾や漆喰が施されたアレッシの間やマッラの間など、歴史を感じることができ、さながら美術館のような建物であった。



中庭にて親善大使の皆さんと記念撮影

ガッレリア観察

ミラノ市議会表敬訪問及び市庁舎視察を終え、昼食後、ミラノ市職員の案内により市役所横にあるガッレリアの視察を行った。

【説明概要】

ガッレリアは、ドゥオーモ広場とスカラ座を結ぶアーケードであり、1865年から12年の期間をかけて建設された。名前の由来はヴィットリオ・エマヌエーレⅡ世という当時の国王の名前となっている。高さは27メートルで、中央の十字路部分に位置するガラス製のドームが最も高く47メートルとなっている。ガッレリアはアジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカの4大陸をコンセプトにしており、それらを表現したモザイクやフレスコ画が象徴的に描かれている。

最近では、800万ユーロをかけて大規模な再建を行い、あわせて、200万ユーロをかけて床の修復を行い、正面入口の床部分は300万ユーロをかけている。今後2年間かけて上部に使用されているガラスの交換を予定している。

ガッレリアは市の所有であり、運営も市が行っており、現在、4軒の個人宅の他、企業や市役所分室が入居しているが、収益率を高めるために契約の見直しを進めている。

また、様々なブランドショップが入居しているが、看板などの景観には非常に厳しい規則があり、字体や色などが決められている。

十字路の交わる付近に青いタイルで囲まれた牡牛のモザイクがあるが、その一部分がややへこんでいる。このへこみに踵を合わせて3回転すると幸せが訪れるということで、地元の方、観光客問わず人気がある。相当数の人に利用されるため、損傷も激しく頻繁に修復しなければならない。

視察では、通常では入場できないエリアも案内いただき、有意義なものであった。



正面入口



ガッレリア内アーバンセンター
(大阪市プロモーション)



ガッレリア内部

大阪・ミラノ姉妹都市提携記念レセプション

午後6時30分、CASCINA CUCCAGNAにて、大阪・ミラノ姉妹都市提携記念レセプションが開催された。

まず、村上副市長から主催者を代表して挨拶があり、来賓として佐藤茂雄 大阪商工会議所会頭、アレッサンドロ・ポツリオ・サリンベーニ ミラノ市生産マーケティング活動局長から挨拶をいただき、富永真 在ミラノ日本国総領事館首席領事の乾杯発声によりレセプションが開催された。

当日は、ミラノ市並びにパルマ市、親善大使の方々をはじめ多くの出席者があり、軽食をとりながら終始和やかな雰囲気の中、交流を深めた。

【村上副市長 挨拶要旨】

ミラノ市には、昨夜遅くに到着し、今朝、市庁舎やガッレリアを訪問させていただいたが、ドゥオーモなど、重厚な歴史を感じさせる建物と、ファンション・モードの発信地として、人々の洗練された装いに、過去と現在が交錯し、華やぎと庶民的な賑わいが混在するミラノ市の魅力を感じた。

ミラノ市との35年近くにわたる姉妹都市関係を大変光栄に思い、国際博覧会が開催されているこの機会に、大阪市会代表団、大阪商工会議所ミッション、姉妹都市交流親善大使の皆様と一緒にミラノ市に集い、大阪の魅力をPRできる機会を得たこと、また、こうして姉妹都市周年記念を皆様と一緒に祝えることを大変うれしく思う。

本日の記念レセプションを通じて、是非皆様方の親睦を深めていただき、今後、大阪市とミラノ市の友好関係が、観光、ビジネス、経済、文化など様々な分野においてさらに深まることを祈念する。



村上副市長挨拶



議長から閉会挨拶